

歴史資源の観光まちづくりへの活用手法（3都市）

近年、歴史まちづくりにおいて、歴史的建造物のリノベーションを行うことで価値を高め、宿泊施設や飲食施設、店舗等として活用する手法が注目を集めている。収益事業により、町家や古民家再生の持続可能性を高める取り組みがみられるようになった。

本調査では、上記のような事例について、歴史的風致維持向上計画の認定都市より歴史資源の観光まちづくりへの活用を行っている3つの自治体にヒアリング調査を行い、「①歴史的建造物の商業施設としての活用」「②歴史的な体験の提供」「③歴史資源を活かすための周辺整備」「④歴史資源を活かすためのソフト事業」の観点から、歴史資源の活用手法について整理した。

歴史資源の観光まちづくりへの活用の取り組み事例

■岐阜県郡上市

（「郡上市歴史的風致維持向上計画」平成26年2月14日認定）

対象事例の位置づけ

郡上市では、（一財）郡上八幡産業振興公社を設立して、町家や歴史的建造物の再生、活用に取り組む。（一財）郡上八幡産業振興公社内の組織「チームまちや」では、8年間で37軒の町家を再生し、これまでに移住者約70名を受け入れた取り組みは注目を集めている。（一財）郡上八幡産業振興公社が独自に推進する事業がほとんどであるが、歴史的風致維持向上計画推進の新たな手法として参考となるため、事例調査の対象とした。

■愛媛県大洲市

（「大洲市歴史的風致維持向上計画」平成24年3月5日認定）

対象事例の位置づけ

大洲市では、歴史的風致維持向上計画の中で「民間ファサード整備費補助事業」、「古民家再生事業」「歴史的風致形成建造物保存対策事業」「無電柱化事業」など歴史まちづくり事業の補助事業を活用するとともに、市、民間事業者、銀行が参入する組織（一社）キタマネジメントを設立し、収益事業として古民家や文化財の再生・活用を進め、目に見える成果をあげており、事例調査の対象とした。

（2021年グッドデザイン賞受賞、第14回観光庁長官表彰 2022年10月1日受賞）

■京都府京都市

（「京都市歴史的風致維持向上計画」平成21年11月19日認定）

対象事例の位置づけ

京都市では維持向上すべき歴史的風致の一つとして「ものづくり・商い・もてなしのまち京都」を挙げており、西陣織は京都を代表する伝統産業に位置づけられている。その生産は多くの工程に分業され、それぞれに高度な専門技能が必要とされる。西陣の工業地域としての特徴は、その主な生産業である機業が高度に分業化されており、その各工程を担当する機業者が集住している点であり、地域が一つの工場を形成している。その各工程を結ぶ存在の地場問屋として、今回は「誉勘商店」を事例調査の対象とした。

また、維持向上すべき歴史的風致の一つとして「暮らしに息づくハレとケのまち京都」を挙げており、「京のまち・路地に継承される地域との関わり」の中で、路地に向かい合った昔ながらの町家を再生し、路地の両側でコミュニティを形成している事例として「あじき路地」が紹介されており、事例調査の対象とした。

①歴史的建造物の商業施設としての活用

手法	岐阜県郡上市	愛媛県大洲市	京都府京都市
歴史ある建物の店舗としての活用			古町家における伝統産業の継承（誉勤商店）
空き家となった町家や古民家の宿泊施設・飲食施設としての活用		国登録文化財旧加藤家住宅の宿泊・飲食施設としての活用	
		大洲城の宿泊・飲食施設としての活用（大洲城キャッスルステイ）	
	宿泊施設としてのまちやステイ（やなかの大助、襄河溪房、甚一）	町家を活用した宿泊施設NIPPONIA HOTEL 城を望むことのできる町家レストランLE UN（ルアン）	
空き家となった町家や古民家の商店・事務所としての活用	町家玄麟（旧稲葉邸）におけるテナント事業	再生町家における20事業者の新規開業	店舗あるいは住居兼店舗として町家を再生し活用（あじき路地）
	蔵市HRN865.1（旧平野酒店）におけるテナント事業		
空き家となった町家や古民家の住居としての活用	チームまちやによる町家の改修・移住者への斡旋によって37軒を開発（約70名の移住者）		

②歴史的な体験の提供

手法	岐阜県郡上市	愛媛県大洲市	京都府京都市
歴史的な活動体験の提供		大洲城の城主体験施設としての活用（大洲城キャッスルステイ）	
		国指定文化財「臥龍山荘」におけるもてなし「数寄の宴」の体験	
	郡上おどり体験講習(通年) 郡上おどり実演見学(通年)	鶺鴒飼	

③歴史資源を活かすための周辺整備

手法	岐阜県郡上市	愛媛県大洲市	京都府京都市
街並み観光の拠点施設の整備	郡上八幡博覧館 城下町プラザ まちなみ交流館 郡上八幡駅観光案内所	大洲町の駅あさもや おおず赤煉瓦館	
歴史的街並みの外側への駐車場の整備（歩く観光の推進）	歴史的街並みの外側への駐車場の整備	歴史的街並みの外側への駐車場の整備	
景観整備	無電柱化	無電柱化	路地内の雰囲気づくり （あじき路地）
	舗装整備	舗装整備	

④歴史資源を活かすためのソフト事業

手法	岐阜県郡上市	愛媛県大洲市	京都府京都市
ルールづくり	郡上市伝統的建造物群保存地区保存条例（重伝建地区）	大洲市景観計画	入居者のルールづくり （あじき路地）
	郡上八幡市街地まちなみづくり町民協定（市街地37町内）		
ガイドによる案内	郡上八幡観光案内人（観光協会）	おおず歴史華回廊	
特典の提供	記念品引き替え券のついた食べ歩きプランの販売		
	歴まちカードの発行		
イベントへの参加			生産者のPRイベント「DESIGN WEEK KYOTO」への参加

①歴史的建造物の商業施設としての活用

〔ヒアリング先〕（一財）郡上八幡産業振興公社

■空き家となった町家や古民家の宿泊施設・飲食施設としての活用
郡上八幡 町家ステイ

〔観光事業の推進組織の設立〕

郡上市では郡上八幡の観光事業の企画・運営を担う組織として（一財）郡上八幡産業振興公社を平成11年に設立した（設立時時は「財団法人」）。町家ステイは（一財）郡上八幡産業振興公社の事業として実施している。

〔まちやステイの種類〕

「やなかの大助」、「襄河溪房（じょうがけいぼう）」、「甚一」は所有者から賃借してゲストハウス（宿泊施設）として運営している。1棟貸しとしている。

「甚一」はビジネス等の長期滞在者の利用を想定している。

また、デイユースのみで会議、展示会、お茶会等の使用を想定している「草石庵」がある。

〔事業の状況〕

現在、コロナ禍によってインバウンドの入込を見込めなくなった影響を受け、改装費と所有者への賃借料を宿泊料で賄えていない（改装費約1,400万円、所有者からの賃借料86万円/年）。

施設名	施設規模	利用料金
やなかの大助	定員6名 木造2階建て	基本料金：20,000円/泊（税込） 郡上おどり期間（7月中～9月上旬） 基本料金：30,000円/泊（税込）
襄河溪房	定員4名 木造平屋建て	基本料金：20,000円/泊（税込）2名まで 郡上おどり期間（7月中～9月上旬）2名まで 基本料金：30,000円/泊（税込） ※追加料金：10,000円/人（2名まで追加可能）
甚一	定員5名 木造平屋建て	長期滞在・賃貸専用 値段は応相談
草石庵	木造2階建て	Dayユース専用（9:00～17:00） 平日：8,800円（税込）土日祝：11,000円（税込） 会議、展示会、お茶会、女子会、結婚式の前撮り、撮影時の着替えスペース、などの利用を想定



やなかの大助



襄河溪房から吉田川を望む

出典：（一財）郡上八幡産業振興公社HP

■空き家となった町家の住居としての活用 「チームまちや」による町家の改修と移住者への紹介

〔チームまちや設立の経緯〕

郡上八幡地区で平成に入った頃から空き家が目立ち始め、平成12年の調査で207軒、その後の調査で353軒の空き家が確認された。市で建物の改修を行い、入居者を見つけるところまで行わなければ、この後も空き家が増え続けることが予想された。しかし行政では必要な手続きが多く、小回りが利かないことから、（一財）郡上八幡産業振興公社の中に「空き家利活用事業」を位置づけ、「チームまちや」という専任の職員を置いて事業にあたることとした。

〔改修する町家の選定基準〕

空き家の中には、廃屋に近いようなものもあれば、近年まで住居として使用されていた物件もある。極端に大きいものや小さいものなど、住居として適さない物件は選定しない。

10年間で市から9900万円、公社から100万円の合計1億円が改修費の予算として確保された。事業開始より10年後には、改修費を家賃収入で補うスキームとしており、家賃が5～6万円/月となるように、工事費は500万～600万以内に収めるようにしている。

改装工事費を見込んだ価格設定であるため、町家の所有者へ支払う賃料は通常より安く設定している。

〔移住者の受け入れの条件〕

事業目的を空き家対策と過疎・定住対策としているため、郡上市内の人が住まいを移る場合は原則として対応しない。郡上市以外の住民票の所有していることを求めているが、郡上市へ移住後3年未満の人は対象としている。ただし、郡上八幡を活性化するために起業する人は、市内の人でも移住を認めている。

チームまちやのHP、SNSで周知しているが、移住者を探すのは難しい。昨年頃から、市HPにバナーを掲示してもらっている。空き家ツアーや、空き家で商売を体験してもらうイベント等も開催している。

移住者探しにおいては、移住してきた人からの紹介などが有力と感じている。

〔取り組みの成果〕

事業を開始してからの8年間で37軒の町家を再生して、入居者は約70名となり、多くは30～40代である。そのうち子どもが20名ほど居る。



改修したまちやの例（内外装）

■空き家となった町家や古民家の商店・事務所としての活用
町家玄麟（旧稲葉邸）におけるテナント事業

古くから漢方医を営んできた稲葉家には「玄麟」という名前が代々伝えられてきた。最後に稲葉玄麟を名乗った当主は、寛政年間から明治20年ごろまで当地で生涯をおくった。

町家玄麟は、旧稲葉邸を（一財）郡上八幡観光振興公社で買い取り、改装した上で、テナント事業を行っている。「チームまちや」及び「水の学校」は公的な活動を行っているためテナント料を免除している。

テナント名	事業内容
炭火焼き玄麟	炭火焼き風居酒屋
郡上八幡麦酒 こぼこぼ	ビール工房
郡上八幡 水の学校	NPO法人郡上八幡水の学校が運営、 水の魅力を伝える様々な催しを開催
チーム まちや	町家の改修と移住者への斡旋。（一社）郡上八幡産業振興公社に所属（前述）



町家玄麟

町家玄麟に入居するテナント

■空き家となった町家や古民家の商店・事務所としての活用
蔵市HRN865.1（旧平野酒店）におけるテナント事業

旧酒蔵について、（一財）郡上八幡産業振興公社が所有者と賃貸契約を結び、改装した上でテナント事業を行っている。平成29～30年に第1期整備としてトイレと躯体整備を行った。令和元年に第2期整備として経済産業省の補助金を活用して、敷地造成、店舗や蔵の外観整備を行った。

コロナの影響で、令和4年秋時点で出店者はいないが、蔵とテナント3店の出店予定者が決まっている。



蔵市HRN865.1

④歴史資源を活かすためのソフト事業

〔ヒアリング先〕（一財）郡上八幡産業振興公社

■特典の提供

記念品引き替え券のついた食べ歩きプランの販売

食べ歩きプランを実施したことで観光客が市街地を散策するようになり、滞在時間、店舗への入込数が増加した。特にインバウンドには、食べ歩きプランを踏破することで記念品がもらえる点が効果的だった。また、郡上踊りを通年で見学できるようにしたことで、夏季集中型から四季型へモデルチェンジする効果があった。

郡上八幡 インバウンド団体様向けプラン「郡上おどり実演紹介&城下町食べ歩きプラン」*2022年版

ミュージアム 郡上八幡博覧館 *見学時間 20~30分
・郡上おどりの実演紹介&ミュージアム見学

郡上八幡の城下町 食べ歩き3品 *所要時間 70分~80分
・みたらしだんご
・栗どらやき(夏は別の和菓子)
・食品サンプルキーホルダー(みかん)

料金 大人 1,000円 net
小人 850円 net
※予約制(突然のご来館の場合ご利用できません)
※添乗員様に各お店の引き換えクーポンを渡します。
(全員に1枚のクーポンはありません)



郡上八幡博覧館
郡上おどり実演
みたらし団子
団子茶屋
栗どらやき
郡上八幡旧庁舎記念館
サンプルキーホルダー

食べ歩きプランで作成したマップ

〔ヒアリング先〕（一財）郡上八幡産業振興公社

■特典の提供

歴まち（歴史まちづくり）カードの発行・提供

（一社）郡上八幡産業振興公社では歴史まちづくりに取り組む都市を紹介する「歴史まちづくりカード」（歴まちカード）を、郡上八幡旧庁舎記念館で配布している。

町の回遊を推進するために、重要伝統的建造物群保存地区に隣接して建設された郡上八幡まちなみ交流館等での配布も検討している。



郡上市の歴まちカード

①歴史的建造物の商業施設としての活用

【ヒアリング先】（一社）キタ・マネジメント

■文化財の宿泊施設・飲食施設としての活用

国登録文化財 旧加藤家住宅の宿泊・飲食施設としての活用

大洲市では消失していく歴史資源を宿泊施設や飲食施設として保全・活用するために、その分野で先駆的に事業を行っている株式会社バリューマネジメントに大洲市における事業実施を打診した。

バリューマネジメントは、まちの顔となる歴史資源を宿泊・飲食施設として活用できることを進出する際の条件とした。市では国の登録有形文化財である旧加藤家住宅の活用することを提案し、合意が得られた。

旧大洲藩主の末裔である加藤泰通が、大正14（1925）年に建築した住宅で、大洲を代表する近代和風建築の一つであり、トイレ、風呂などは改築を行っている。



旧加藤家住宅の外観

【ヒアリング先】（一社）キタ・マネジメント

■歴史的建造物の宿泊施設・飲食施設としての活用

大洲城の宿泊施設・飲食施設としての活用（大洲キャッスルステイ）

大洲城は、明治21（1888）年に天守が取り壊されたが、4棟の櫓は解体をまぬがれ、いずれも国の重要文化財に指定されている。

4層4階の天守は、明治期の古写真や天守雛形と呼ばれる江戸期の木組模型などの史料をもとに平成16（2004）年に木造復元された。建築基準法で木造では認められない規模であったが、市による2年近い折衝を経て、保存建築物として建築基準法の適用除外が認められた。

日本で初めての城泊できる施設である。1組（大人2人以上）で1泊110万円の価格設定がされている（一人増える毎に10万円追加、6名まで）。エアコンがないため、季節を限定して年間30組を上限としている。海外の方や記念日に利用される方が多いとのこと。

※宿泊・飲食する天守閣は文化財には指定・登録されていない。



天守における宿泊体験



天守における飲食体験

■空き家となった町家や古民家の宿泊施設・飲食施設としての活用 町家を活用した宿泊施設 NIPPONIA HOTEL

〔官民連携による事業推進組織の設立〕

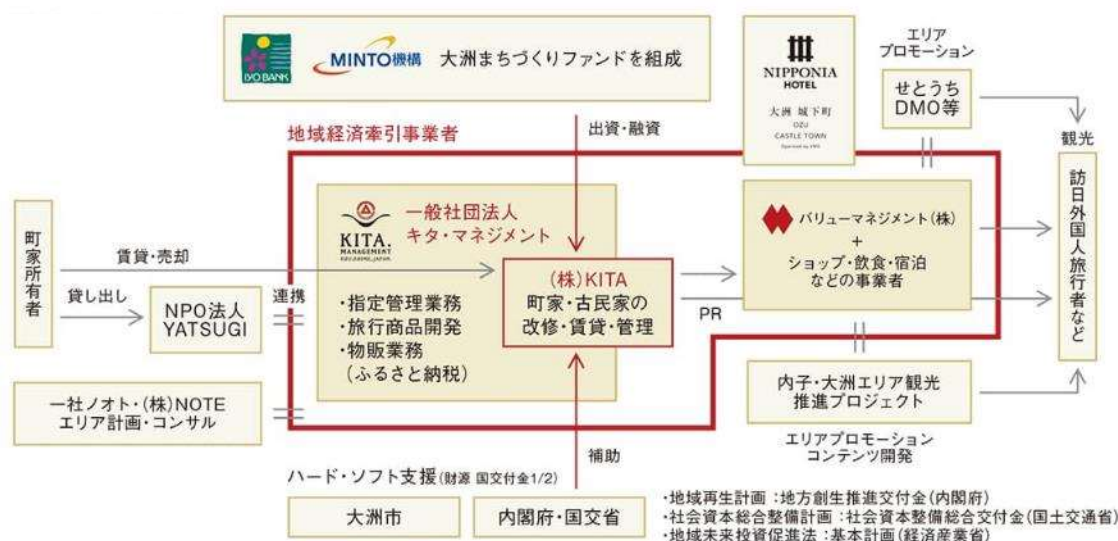
古民家や町家などの歴史的建造物が次々と消失することに危機感を感じた大洲市では、歴史的建造物を宿泊施設として活用することを構想し、伊予銀行を訪問し資金調達の相談をした。その後、勉強会などを開催する中で、丹波篠山で歴史的町家をホテルとして活用するスキームを考案した（一社）ノオトや、古民家や町家を活用したホテルの運営を手がける株式会社バリューマネジメント（以下、バリューマネジメント）等と交渉を進め2017年にバリューマネジメント、ノオト、伊予銀行、大洲市の四者で地域連携協定を締結し、同年7月に事業を担う（一社）キタ・マネジメントが発足した。

〔事業スキーム〕

古民家や町家は補修して15年間で所有者に返却するスキームとしている。所有者へ支払う賃料は固定資産税程度で良いという極めて低額で貸してくれる人もおり様々である。第一期として2020年4月から古民家や町家を活用した宿泊施設（4棟）、フロント・レストラン（1棟）、ショップ（1棟）の運用を開始した。宿泊事業はアップミドル層をターゲットとし、1棟6～7万という価格設定で、稼働率30数%で持続的に運営できるスキームとしている。宿は35室（改修中2棟含む）という目標に到達したため、宿泊施設はこれ以上増やす予定はない（2022年11月時点）。



町家を活用した宿泊施設NIPPONIA HOTEL



事業スキーム図

出典：（一社）キタ・マネジメントHP、大洲市公式観光情報HP（（一社）キタ・マネジメント制作）

■空き家となった町家や古民家の宿泊施設・飲食施設としての活用 城を望むことのできる町家レストラン

「LE UN（ルアン）NIPPONIA HOTEL 大洲 城下町」

大洲城を望む再生町家のレストラン。NIPPONIA HOTELを展開している株式会社バリューマネジメントが運営している。席数は22席。瀬戸内海の海の幸、肘川の川の幸、恵まれた自然地形から生み出される数々の愛媛、大洲ならではの四季折々の食材を売りにしており、ランチ（11:30～15:00）とディナー（17:30～22:00）を提供している。今後、結婚式の受け入れも予定しており、大洲の周辺神社、人前式、宴内和婚人前式の3つの挙式スタイルを選ぶことができ、レストランで披露宴を行う。



再生町家における飲食体験

出典：NIPPONIA HOTEL 大洲 城下町HP

■空き家となった町家や古民家の商店・事務所としての活用 再生町家における20事業者の新規開業

キタマネジメントでは古民家を再生してテナントとして事業者へ貸し出している。20事業者が入居している（2022年11月時点）。2階は宿泊施設として活用しており、本来の店舗兼住居のスタイルで活用するため、改装が小規模で済んでいる。

事業内容は雑貨、カフェ、バーガー、クラフトビール、日本酒、ワイン、パン、フルーツサンド、クレープ、レザークラフトなどである。事業者は愛媛県内の人で、約半数が大洲市の事業者である。

古民家や町家を改装して、テナントとして事業者へ貸し出す事業は今後も継続していくとしている。



古民家再生ショップ 2階は宿泊施設



店舗の例

出典：キタマネジメント提供資料

②歴史的な体験の提供

〔ヒアリング先〕（一社）キタ・マネジメント

■歴史的建造物における歴史体験の提供

大洲城の城主体験施設としての活用 （大洲城キャッスルステイ）

大洲城キャッスルステイは、1組（大人2人以上）で1泊110万円以上の価格設定がされている。基本的な体験は「大洲城キャッスルステイのすごし方」のように設定されている。キャッスルステイの客に限定された「限定プログラム」と「カスタマイズプログラム」があり、客の要望に応じてプログラムを組み立てることとしている。

カスタマイズプログラムとしては、肱川遊びプログラム、文化遺産めぐりプログラム、大洲まちめぐりプログラムなどがある。



1617 加藤貞泰の入城体験



臥龍山荘での朝食



鉄砲隊によるお出迎え



肱川遊びプログラム

出典：【公式】大洲城キャッスルステイHP

大洲城キャッスルステイのすごし方

- 15:30 到着・着替え
- 17:00 大洲城入城
- 18:00 雅楽鑑賞
- 18:30 夕食
- 20:30 ラウンジ
- 22:30 天守で就寝
- 07:30 朝食（臥龍山荘）
- 09:30 大洲散策

〔ヒアリング先〕（一社）キタ・マネジメント

■文化財における歴史体験の提供

国指定文化財「臥龍山荘」におけるもてなし「数寄の宴」の体験

臥龍山荘は肱川の景勝地に建てられた数寄屋造りの別荘で、国指定重要文化財である。文化庁の支援で、施主の河内寅次郎が臥龍山荘で実現しようとしていたもてなしを「数寄の宴」と称して、有識者を招待して、舟下り、能の鑑賞、食事、お茶などの体験をしていただく「文化体験事業」を行った。



川船を利用し肱川から客人を迎え入れ、不老庵で呈茶などでもてなし



臥龍院に案内して宴席や能などの古典芸能で客人も主人もともに楽しむ



出典：キタマネジメント提供資料

■歴史ある建物の店舗としての活用・継承
古町家における伝統産業の継承（誉勘商店）

誉勘（こんかん）商店は、宝暦元年（1751）に誉田屋勘兵衛が本家の誉田屋庄兵衛からのれん分けを許され、室町冷泉町で創業した。金色の糸を用いて金模様を織り出した「金欄」という絹織物を商う西陣織の織物問屋である。法衣や装束、舞台衣装、人形衣装などを扱っている。

建物は蛤御門の変（1864）で焼失し、明治9年（1876）に再建されたと言われている。建物には、再建以前の古材も使われているとのことである。虫籠（むしこ）窓という土壁の格子を持つ典型的な古町家の形態を残しており、歴史まちづくり法に基づく「歴史的風致形成建造物」に指定されている。



誉勘商店外観



誉勘商店内観

②歴史的な体験の提供

■歴史的な活動体験の提供
伝統工芸品の生地を使った製作体験（誉勘商店）

誉勘（こんかん）商店では、「金欄」という絹織物を用いて、金封ふくさやマカロンポーチなどの小物を制作する約3時間のワークショップを行っている。当主より絹織物の話を聞き、抹茶と季節のお菓子が提供される。定員は指導の目の届く5人としており、複数の生地の中から好みの生地を選ぶことができる。制作した小物はその日の内に持ち帰れる。



金封ふくさ



マカロンポーチ



① 立派牡丹紋

② つる花紋



③ 鳥小紋

④ 東に牡丹に柏葉

選択できる生地の例

■歴史ある建物の店舗としての活用・継承

店舗あるいは住居兼店舗として町家を再生し活用

〔取り組みの経緯〕

長年にわたり空き家の状態が続いていた長屋路地を、若手作家の創作と住居の場として再生させた。大家の安食弘子さんは、若いころに彫金に没頭し、結婚を機にあきらめた夢を若手作家に託すべく、町家の再生に取り組んだ。

〔町家の再生〕

国、市の支援金と自前の資金で電気、ガス、水道の修繕、耐震補強、屋根の葺き替えを行い、その他の改修はボランティア団体（町家倶楽部ネットワーク）と入居予定者と一緒に自前で工事を行った。2002年に改修を始めて、入居が始まったのは2004年6月だった。約20年間に経過する中で、4回程度くらい入居者の交代があった。

〔入居者のルール〕

改装については図面等を申請してもらい許可を出す形にしている。原則、現状復旧であるが、復旧しなくても問題がないと大家が判断すればそのままでも構わないこととしている。外観は格子、土壁、漆喰等を原則としている。

〔取り組みの成果〕

事業を続ける中で平成26年「京都市景観賞建築部門」の優秀賞を受賞した。また、平成28年京都商工会議所より「京都創造者大賞（未来への飛翔部門）」を受賞した。

「舞妓Haaaan!!!（宮藤官九郎監督）」、「ミュージコフィリア（谷口正晃監督）」などの映画に加え、テレビドラマやコミックの舞台になっている。テレビ、雑誌、新聞で報道されることも多い。



あじき路地

③歴史資源を活かすための周辺整備

〔ヒアリング先〕 あじき路地

■景観整備

路地の雰囲気づくり（あじき路地）

外観は格子、土壁、漆喰等を原則としている。2階の軒に簾をかけて、日よけや目隠しとすると同時に意匠の統一を図っている。

私有地であることを示す看板を設置する際には、路地の雰囲気に合うように、意匠を工夫している。

路地の最奥部のコンクリート舗装となっていた場所を庭として整備した。既存の井戸を生かして花木を植樹している。



日よけや目隠しとして簾を活用



入口にある案内所

路地奥に新たに整備された庭

④歴史資源を活かすためのソフト事業

〔ヒアリング先〕 あじき路地

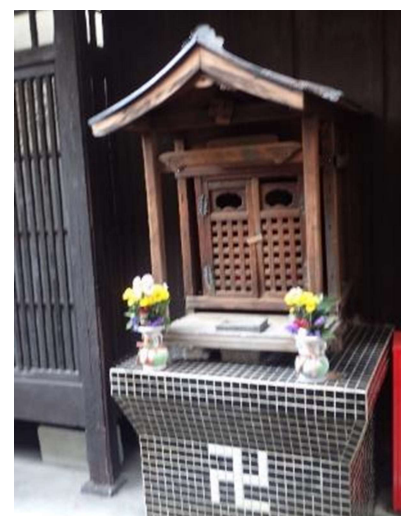
■ルールづくり

入居者のルールづくり（あじき路地）

歴史的風致や入居者のコミュニティを良好に維持するために、いくつかのルールがある。

改装については、内容がわかる図面を提出してもらい、大家が許可を出す形にしている。原則、現状復旧であるが、復旧しなくても問題がないと大家が判断すればそのままでも構わない。

路地の掃除当番、お地蔵さんを祀る祠の清掃当番がある。



当番制で管理されている祠

■イベントへの参加 生産者のPRイベント「DESIGN WEEK KYOTO」への参加（誉勤商店）

「DESIGN WEEK KYOTO」は、様々なジャンルの生産者が自社の製品をPRするために実施されるイベント。2022年で7回目の開催となり2/13(日)～2/20(日)の8日間開催された。伝統産業も多く参加している。

オープンハウスという製品を生産している工房や企業を見学できる取り組みが主要な取り組みとなっており、内部を見学できる場合にはのぼり旗を立てることになっている。2022年の参加組織は約50事業所。

事業者によってオープンハウスで体験できる内容は様々であり、誉勤商店では、4日間参加して、1時間の社内ツアーを1日に2回～3回行った。

2023年は予約制でマカロンポーチ制作のワークショップも実施する予定。



誉勤商店
Kokoro Station
DESIGN WEEK KYOTO



香老舗 松葉堂
Shogakukan Co.
DESIGN WEEK KYOTO



藤匠 竹形堂
Takeshima
DESIGN WEEK KYOTO



山元堂工場
Yamamoto San Kyo
DESIGN WEEK KYOTO



カスタム印刷LIQ
GUSTO KYOTO LIQ
DESIGN WEEK KYOTO



京都川屋商店
Kyoto Kawaya-Shop
DESIGN WEEK KYOTO

DESIGN WEEK KYOTO2022HP参加者紹介ページ